【授業科目】成人急性期看護援助論　　Adult Acute Nursing

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小寺 直美、豊田 妙子、吉田 和枝 大久保 仁司、吉川 尚美	３年次 前　期	必　修	2	４６	演　習	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／急性期看護の特徴、周手術期にある成人期の人々、救急患者の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、治療による侵襲による生体反応と合併症などの心身への影響のアセスメント方法について講義およびGWや演習を通して理解を深める。 周手術期過程(術前・術中・術後)に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患・手術に特徴的な看護実践についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートについては、全体の総評コメントを授業内で提示する。
実務経験に関する授業内容	看護師の臨床経験を持つ教員が、看護師として必要な急性期看護の知識・技術について、教科書を中心に資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①急性期患者の疾患や病態、手術侵襲とその生体反応の特徴について記述することができる。 ②各疾患の周手術期の経過と看護展開について記述することができる。 ③救急患者の看護について病院前、病院搬送後の看護について理解できる。 ④術後合併症のアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を修得することができる。 ⑤創傷管理、BLS、ストーマケアの実践方法を修得することができる。
時間外学習に必要な内容・時間	第１回事前学習：成人看護学概論で学んだ理論について復習しておく（60 分）。第 2～9 回事前・事後学習：周手術期看護、術後合併症について教科書を事前に読んでまとめ、授業後は不足分を補っておく（各 60 分）。 第 10～11･14～16 回、事前学習：各疾患の特徴的な病態などについて既修の授業資料を復習しておく（各 60 分）。 事後学習：各疾患に対する看護上の問題／看護診断とその看護のポイントについてまとめておく（各 60 分）。 第 12･13 回、救急看護とその特徴について事前に読んでまとめ、授業後は不足分を補っておく（各 60 分）。 第 17 回事前・事後学習：BLS について課題を課す（各 60 分）。 第 18 回～23 回は、胃がん患者の看護過程の展開について事前・事後課題を課す（各 60 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第１回　急性期看護の特徴	小寺
第２回　周手術期看護の特徴①（手術前）	吉田
第３回　周手術期看護の特徴②（手術中）	吉田
第４回　周手術期看護の特徴③（手術直後）	小寺
第５回　手術後の看護①（呼吸・循環）	小寺
第６回　手術後の看護②（消化器・栄養）	小寺
第７回　手術後の看護③（疼痛・術後せん妄）	大久保
第８回　手術後の看護④（創傷治癒過程・術後感染・ドレーン管理）	吉川
第９回　手術後の看護⑤（早期離床・日常生活援助）	吉川
第 10 回　周手術期患者の看護　事例紹介：肺切除術を受ける患者の看護展開	豊田
第 11 回　周手術期患者の看護　事例紹介：大腸の手術を受ける患者の看護展開	吉田
第 12 回　救急患者の看護①救急看護の概念（救急看護とは・救急医療体制・救急看護の場）	小寺
第 13 回　救急患者の看護②プレホスピタルケア・救急初療の実際（ALS 含む）	小寺
第 14 回　救急患者の看護③BLS の実際（演習）	吉川
第 15 回　救急患者の看護④事例紹介：運動機能障害患者の看護展開（外傷）	大久保
第 16 回　救急患者の看護⑤事例紹介：急性心筋梗塞の看護展開	吉川
第 17 回　救急患者の看護⑥事例紹介：くも膜下出血患者の看護展開（脳死を含む）	小寺
第 18 回　周手術期患者の看護：胃がん患者の看護過程の展開①（情報収集・情報整理）（演習）	小寺・全員
第 19 回　周手術期患者の看護：胃がん患者の看護過程の展開②（一次アセスメント）	小寺・全員
第 20 回　周手術期患者の看開：胃がん患者の看護過程の展開③（関連図・二次アセスメント）	小寺・全員
第 21 回　周手術期患者の看護：胃がん患者の看護過程の展開④（計画立案）	小寺・全員
第 22 回　周手術期患者の看護：胃がん患者の看護過程の展開⑤（実施・評価）（演習）	小寺・全員
第23回　発表　まとめ	小寺・全員

評価方法 評価基準	筆記試験 60%、演習 40%		
教科書	①池上徹編集「別巻臨床外科看護総論」医学書院 ②北川雄光、江川幸二編集「別巻臨床外科看護各論」医学書院 ③山勢博彰「別巻救急看護学」医学書院（治療学で使用） ④香春知永「臨床看護総論」医学書院（ヘルスアセスメント・看護技術論Ⅲで使用）	参考書等	①江川隆子「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針よくわかる機能的健康パターン」照林社(看護過程論で使用)②任和子他編「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院（看護技術概論で使用） その他、講義内で紹介
学生への助言等	身体の構造、病態生理の基本的知識をふまえて授業に臨んでください。成人看護学実習Ⅰで役立つ知識・技術ついて、実習で受け持つ可能性の高い患者事例を紹介しながら講義・演習を行います。		